

第 1 回看護研究会

(新任看護師教育研修会)

令和3年 6月10日 (木)

Zoom による Web 開催

[午前] 講演

『ホスピタリティ・マインドでハートフルな仕事を！
～感謝の気持ちを込めて～』

講師 株式会社タンタビーバ 取締役 板谷 和代 氏

[午後] 講演

『看護のアイデンティティ』

講師 甲南女子大学 看護リハビリテーション学部
学部長・教授 秋元 典子 先生

(一社) 岡山県病院協会

(注：類似した感想はまとめています。)

第1回看護研究会（新任看護師教育研修会）のアンケート集計（令和3年6月10日）

（29病院 164名 出席 ・ 128名 回答）

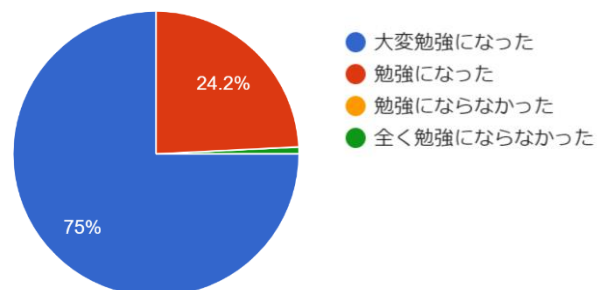
1. 講演『ホスピタリティ・マインドでハートフルな仕事を！～感謝の気持ちを込めて～』を聞いて。

（講師：株式会社タンタビーバ 板谷 和代 取締役）

A.

a. 大変勉強になった	96名
b. 勉強になった	31名
c. 勉強にならなかった	0名
d. 全く勉強にならなかった	1名

未記入0名



B. 感想や、今後自分で取り組んでいこうと思ったことがあればご記入下さい。

- ・ 看護師として必要な心得を学ぶことができた
- ・ 今までの患者さんや先輩への接し方を振り返るきっかけになった
- ・ 社会人として責任のある行動をしていこうと改めて思った
- ・ 社会人として基本的なことが改めて学べた。相手に感じさせる印象は大切だと思ったので、挨拶ひとつにしても意識しようと思った
- ・ 悩んでいた部分が解決できるような内容があり、資料を読み直して気持ちの持ちようを変えていけるようにしたいと思った
- ・ 自分の可能性を自分がまず信じて、これからも頑張ろうと思った
- ・ いかなる環境・条件の中でも、自らの能力と可能性を最大限に発揮できるよう努力していこうと思った
- ・ 患者さんも同じ職場で働く人も嬉しくなるような働き方をしたいと思った
- ・ 自分次第で人生楽しめるかが決まるんだと思った
- ・ 看護師、患者さん共にマスクをつけているため、身だしなみ、言葉の選び方、声色などが重要であると改めて思った
- ・ マスクをしての患者さんとの対面であったり、家族とも電話を通じたコミュニケーションが多いため、表情や言葉遣いに特に気をつけていこうと思った
- ・ マスクをしている時期だからこそ、目元の表情に注意して関わろうと思う
- ・ 常にマスクをして関わるため目や声を意識していきたいと思った。また、笑顔を忘れずに仕事をしていきたいと思う
- ・ 言葉遣い、態度、身だしなみに気をつけようと思った
- ・ 相手の立場に立ってより一層言葉遣いや態度を改めようと思った
- ・ 改めて、日々の態度や言葉遣いなどマナーについて振り返り、相手のことを思いやる心を持って働いていきたいと思った
- ・ お客様に対してきちんとした言葉遣いをするのは、社会人として、人として大切なことだと再確認した
- ・ 気をつけているつもりでも、正しい言葉遣いできていなかったと感じた。記録に残すときも考えて書こうと思った
- ・ マスクやゴーグルで顔が見えにくい分、挨拶や身だしなみをきちんとして、しっかりと患者さんに伝わるようにしていきたいと思った
- ・ マスクにゴーグルで表情がなかなか読み取れないと思うが、目や体で感情を表現し患者に安心を与えられるようにしたいと思った

- ・ 改めて挨拶やマナー、敬語の大切さが分かった。電話対応や家族の対応で生かしていきたい
- ・ 防護服を着用して患者と接しているため、態度や言葉遣いなどに注意して表情がわからなくても少しでも安心して過ごしてもらえるようにすることが大切であると学んだ
- ・ 挨拶・態度の大切さを学んだ。また多くの人々と関わる中で、違いを拒否したりせず、持ち味としてその人を好きになりたいと思う
- ・ 基本的なことである身だしなみを整える、挨拶、態度、言葉遣いはとても大切なことだと改めて実感した。意識することですぐにはできることなので、社会人として身につけて実践していきたい
- ・ 自分の表情や態度によって相手の受け取るイメージが変化することを改めて学べたので意識して取り組もうと思った
- ・ 受け手がどのように捉えるかを考えながら言動や表情、マナーに気をつけたい(2)
- ・ 言葉だけでなく表情や態度からも相手に伝わりやすいと思った。チャレンジ精神を持って仕事をしたいと思う
- ・ 態度や表情・言葉遣いなど注意していても忘れていたり間違えることがあるため意識して心掛けたい。電話対応は声質やトーンも大切になってくるため代表であることを意識する。伝言がある時に伝えられるようにしていきたい。自分も相手も肯定的に受け止められるようポジティブでいたい
- ・ ふとした時に患者さんにため口になってしまうことがあったので、印象を良くするためにも正しい言葉遣いを意識しようと思った
- ・ 相手や環境のせいにするのではなく、まず自分の中に問題を捉えることはとても大切だと思った。患者さんが自然と安心できるような、挨拶・マナー・笑顔・態度を身につけていきたい
- ・ 患者様に対して失礼のないように対応していく必要性について学ぶことができた
- ・ 看護を行っていく中で、態度や言葉遣いはとても重要になっていくことを改めて感じた。「誠意・熱意・創意」を十分に意識しながら行動していきたい
- ・ 口角を上げて笑顔でいること。きちんとふさわしい言葉遣いをすること
- ・ 自身の心を豊かにし常に笑顔を心がける ・ いつも笑顔で過ごしていこうと思う
- ・ 入職して浅く、できないことや分からないことも多く落ち込むこともあるが、笑顔を大切にしておコミュニケーションを取っていこうと思った
- ・ 自分が看護師を目指した理由、続けられている理由を考えることができ、今後のモチベーションにも繋げられるきっかけとなった
- ・ 働き始めて仕事へのモチベーションが分からなかったが、患者さんの声や自分ができることの拡大への喜びを糧にしたいと感じた
- ・ モチベーションを持って仕事をする大切さに改めて気づくことができた
- ・ モチベーションを保てるように、日々ストレス管理していきたい
- ・ モチベーションが上がらないことを周囲のせいにはしない。物事に対し、もっと広い視野を持つてみる
- ・ 働く中で嫌なことや辛いことがあっても、自分にとって成長の場になっていると考えれば、それはモチベーションになると気がついた。また、自分の可能性を広げていくために強みを見つけ、何かに、自分にチャレンジしたいと感じた
- ・ 何のために働くのか考えるきっかけになった。ポジティブに働けるように頑張りたい
- ・ 最近落ち込んだ時期があったが、なぜ働いているのか自分が何をしたいのか、改めて考えることで少しポジティブになれた
- ・ 仕事をする中でいっぱいいっぱいになっていたが、自分はなぜ働きたいのか原点に戻って考えることができた。モチベーションが下がったときに講義を思い出して頑張ろうと思った
- ・ 社会との繋がりを持つ＝働く、と考えていたが、働くことで成長できるという考え方は素晴らしいと感じたので実践したいと思った
- ・ 毎日の業務に追われるのではなく、自分にとって働く意味は何かを考えながら毎日過ごしていきたいと思った

- ・働く意味を持つことで仕事をするのが楽しくなると学べたので、何のために働くか考えていきたい
- ・働く意味を改めて考えるきっかけになった。働いていて辛いことやネガティブな気持ちになることがあるが、そんな時こそポジティブな気持ちに変えてモチベーションを高めることが大切と学んだ。スタッフと協力し働くやりがいを見出し、スタッフ全員でハートフルなサービスを患者さんに提供していきたいと思った
- ・今まで「働くこと」の意味を考えることがなかったので、考え直すきっかけとなった。「働くこと」の意味を考えながらハートフルな気持ちで看護できるようになりたい
- ・コロナ禍で働くことについて深く考えられずにいたが、自分なりに楽しく働いてみようと思えて改めた
- ・今まで働くということについて詳しく考える機会がなかったので、とても良いきっかけとなった。自分の気持ち次第でいろいろ変わることが分かったので、意識していこうと思った
- ・日々の業務に追われ、自分に抜けていた社会人として大切なことを再認識できた。また、壁にぶつかった時に「なぜ働くのか」「ポジティブに」を思い出し乗り越えたいと思う
- ・落ち込むことが多いので、「自分の強み」を磨いて頑張っていきたいと思った
- ・気持ちが落ち込んでも自分で自分の内面をコントロールし、人間としても成長していきたいと思う
- ・自分の人生はまだ夜明け前ということだったため、更に夢を見つけて挑戦していきたいと感じた
- ・心をカタチで表すためにはマナーが必要なので、しっかりしていこうと思った
- ・マナーがとても大切だと学んだ。基本を大切に相手のことを考えた行動を取っていきたいと思う
- ・医療の場でもマナーの大切さが大事だと分かった
- ・自分ひとりではなく、周囲の状況を見て行動ができるようになりたいと思った
- ・基本的なマナー（身だしなみ、挨拶、態度、言葉遣い）を知れて良かった。ただ業務をこなすだけでなく、楽しく働くために様々なことに興味を持って自立型姿勢でいることが大切だと思った。また、自分の強みに気づき仕事に生かそうと思った
- ・ポジティブ心理で、毎日笑顔で仕事していきたい
- ・前向きに考えていこうと思う
 - ・自分の課題を明確にし、ポジティブに取り組む
- ・前向きに考えながら取り組む
 - ・自分でスイッチオンできるようになりたいと思う(3)
- ・何事にもポジティブに前向きに、考えて・行動していきたいと思った(2)
- ・ポジティブな考え方で楽しく仕事に取り組みたいと感じた
- ・自分でスイッチをONにして、何事もチャレンジしていきたい
- ・初心の心を忘れずに、ポジティブに物事を考えいろいろなことにチャレンジしていこうと思った
- ・自分のスイッチは自分でしか押せないため、切り替えを大切に、自分と他人を大切に仕事したい
- ・これから仕事をしていく中で、上手くいかなくて苦しいことがたくさんあると思うが、自分がどうなりたいか目標を明確にして、前向きに取り組んでいきたいと思った
- ・落ち込んでいてもポジティブに前を向けば視野を広く持つことができるので、実践していこうと思う
- ・ポジティブに考え進んでいくことで道が広がりっており、壁にぶつかったとき講演を思い出そうと思った
- ・仕事にまだ慣れず、ネガティブな気持ちで過ごすことが多いが、ポジティブに仕事をこなせるように頑張りたいと思う
- ・気持ちが沈んでいるときに、考え方を変えてプラスにしていこうと思った
- ・ネガティブな発想からポジティブな発想に変換して、視点を変えることで新しい気持ちになることが分かった。自分はなぜこの仕事をしているのか迷ったときは原点に立ち返っていきたい
- ・自身の考え一つでプラスに物事が進むと感じた。下ばかり向くのではなく上を向いて頑張りたい
- ・自分はどちらかというとネガティブな方なので、難しいなと思うところもあったが、日々の一瞬一瞬を大切にしていきたいと感じた
- ・無意識の思い込みで悪い方向に考えないような受け止め方をしていきたい
- ・ポジティブを大切にしようと思った。捉え方ひとつで様々な考え方ができることが分かり参考になったため、自分もポジティブな思考を持とうと思った

- ・ 目標を持つことがなくなりかけていたため、ポジティブになる目標を掲げようと思った
- ・ これから辛いことなどがあつた際には、自分でポジティブの方へスイッチを切り替えられるように物事に取り組んでいこうと思った
- ・ 自分の短所ばかりに目が行き落ち込んでしまう日もあるが、自分の短所も見方を変えれば長所になるのだと考えることができた
- ・ 自分の弱みばかりに注目していたが、いかなる環境や条件にいてもいつもポジティブに、自分の強みを伸ばしていこうと思った
- ・ 自分の強みを大切にし、自分の思い・価値観に蓋をしてしまわないようにしていきたい
- ・ 働き始めて、失敗や知識・技術不足で患者さん・先輩へ迷惑を掛けることも多く、毎日落ち込む日々だが、もう少しポジティブに考えて行動すれば良いこともあると気づかされた。毎日笑顔で、相手に伝わる声で挨拶をしたいと思う
- ・ 一人ひとり考え方が異なるため、スタッフや患者さんの考え方を知りながら自分の考え方の視野を広くしていきたいと思った
- ・ 自己肯定を基盤に、まずは1年を乗り越えたい
- ・ 自分と違う考えを受け止める
- ・ 自分とは違う発想に感謝し、違う意見を受け止め受け入れチームメンバーと協働していく
- ・ 一人ひとり見えている景色が違うため、決めつけや思い込みで行動するのではなく、見方や考え方を改めて行動していこうと思う
- ・ 仕事をする上でも、相手(患者さんや仕事上の仲間)への思いやりが大切だと改めて分かった
- ・ I like me × I like you = I will be OK を頭に入れて働きたい
- ・ 「ハートフルな仕事」というのがとても印象的だった。今後自分の強みは何かを見つけて伸ばしていきたいと思う。また、他の人の強みもたくさん見つけていきたい
- ・ 2年目になって1年目よりはチャレンジする精神が少し減ったと思ったので、失敗を恐れずチャレンジしたい！！ ハートフルな心で仕事をしたい
- ・ 自分のモチベーションやポジティブのスイッチを ON にすること、相手への思いやりの心を持つことで、ハートフルな仕事をする事に繋がる事が分かった
- ・ 新たな見方をし、考え方を手に入れるチャンスを広げていきたいと思う
- ・ 仕事に慣れるのに精一杯で、なぜ働くか、自分はどうかありたいか考えることがなくなっていたが、初心を忘れず、また思い出して楽しく働こうと思った
- ・ 自分の強みを持ち感謝することがチームの力になることを学び、自己啓発や経験を糧に自分を強くし、周りに感謝していきたい
- ・ 2年目となり落ち込むことも多くあるが、自分自身を肯定し、患者様のために行動できるように、自分しかできないことをできるようにしていきたいと思った
- ・ 目標はあるが「どうせ自分には・・・」と自分の可能性に蓋をしていることが多かったが、内発的モチベーションを高めて目標に向かって頑張ろうと思う
- ・ 自分には助産師になる夢があり、いろいろな関係で一旦救命で働くことになったが、何歳になってもやりたいことや興味のあることができるよう挑戦していくことは大切だと改めて感じる事ができた。今後チャレンジしていきたい
- ・ チャレンジすることの大切さ、自分自身を信じることの大切さが分かった。1つのことにとらわれず、いろいろな視点から見ることで可能性がたくさんあると思った
- ・ 日々業務に追われ、失敗して気持ちが落ち込む時などに心に余裕がなくなり、時々意欲がなくなったり気分がマイナスになることがあるが、初心に戻り、やりがいを振り返ってモチベーションを保っていきたいと思った。周りで支えて下さる先輩や温かい言葉を掛けて下さる患者様、環境に感謝しながら頑張りたいと感じた
- ・ 駐車場のおじさんのように、挨拶など話しかけやすい雰囲気は自分で作っていこうと思った
- ・ 率直に話がバラバラしていて伝えたい内容が分からなかった

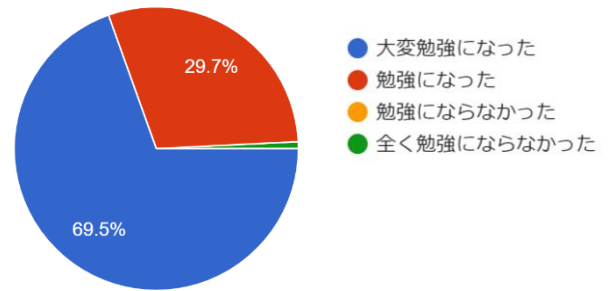
2. 講演『看護のアイデンティティ』を聞いて。

(講師：甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 学部長 秋元 典子 教授)

A.

a. 大変勉強になった	89名
b. 勉強になった	38名
c. 勉強にならなかった	0名
d. 全く勉強にならなかった	1名

未記入0名



B. 感想や、今後自分で取り組んでいこうと思ったことがあればご記入下さい。

- ・ 看護の基盤・根本を再認識することができた
- ・ 看護の核について振り返り、初心に戻って改めて看護の必要性・大切さを感じた
- ・ 看護の原点を知ることが改めてできたので、基本を忘れず頑張りたいと思った
- ・ 看護の基本を思い出しながら看護を行っていこうと思う
- ・ 看護という仕事に誇りを持って働いていきたいと思う
- ・ 自分の看護観をしっかりと持ち、患者の安楽を考え行動していく
- ・ 看護観を持って・大切に、看護・仕事をしていきたいと思った(2)
- ・ 看護のアイデンティティがとても勉強になった。呼吸器外科で働いているため、先生の患者としての体験がとても参考になり実践に生かそうと思った
- ・ 看護におけるアイデンティティは、団体として何をすべきかを考えていくことだと学んだ
- ・ 対話式の講義で、何度も考えながら想像しながら受講することができた。今後も考えること、想像することを大切にして日々の業務に取り組んでいきたい
- ・ 自分自身の可能性を信じて日々業務を頑張っていこうと思った
- ・ 「看護」とは何なのか、学生時代に習ったであろう大切なことが復習できたと感じる
- ・ 看護とは何か、看護観とは何か、看護とはどのような仕事なのかを改めて考える機会となった。また、命を守るだけでなく、生活を支えることの大切さを改めて考える機会となった
- ・ 看護という職業の魅力について改めて実感することができたと同時に、看護師である自分にしかできない方法で患者さんの日常生活を支えていきたいと思った
- ・ 看護とは何かをもう一度考えさせられた。看護を学んだ日のことを思い出しながら、今後も看護を提供していこうと思う
- ・ 業務をこなすことで精一杯だったが、看護とは何か考えることができ良かった
- ・ 看護師とは何か再認識することができた。今後の実践において看護とは何かということを念頭におきながら実施していきたいと思った
- ・ 看護師とは何かを深く考えさせられた。忙しい中でなかなか患者さんの思いに寄り添えないもどかしさもあったが、できる限り患者さんの思いや心に寄り添って看護をしていきたいと思った
- ・ 看護師とはどんな役割なのか、患者と向き合うためにどんな感受性を持つべきかなどを考え直すことができた
- ・ 看護とは何か改めて考えられた。看護師側目標だけで考えず、患者さんの気持ちもしっかり考えたい
- ・ 看護とは何かを改めて考えさせられた。生活を支えていくために何ができるか日々考えて振り返り、よりよい看護をしていきたい
- ・ 目の前のことで精一杯になり、看護とは何か考える余裕がない時がある。このタイミングで目指すべき看護の概念を学べてありがたいことで、広い視野で実践に移していこうと思う

- ・ 学生時代に学んだことでも忘れかけてしまっていることを思い出させていただいた。これからの関わりとして、また一から大切にしていきたいと思う
- ・ 倫理に基づいて患者さんと関わっていくことが大切だと考えさせられたので、今後意識して行動したいと思った
- ・ 改めて普段自分が行っていることが看護なのだとということを実感できた
- ・ 自分たちは療養上の世話を行う専門職であることを、常に意識して患者さんと接しようと思った
- ・ 初心（原点）を忘れずに、患者の思いを汲み取ることのできる看護師になろうと思う
- ・ 採血など侵襲を伴う行為が始まり、そちらに目が行きがちだが、看護師に許された行為である療養上の世話も重要な看護であると分かった
- ・ 改めて看護師にしか療養上の世話ができないことを知ることができた
- ・ 「療養上の世話」におけるケアを丁寧に行っていきたい
- ・ 療養上の世話という特別な仕事を大切にしたいと思った
- ・ 療養上の世話という意味を改めて実感した。患者さんを思う心を忘れないようにしていきたい
- ・ 看護師にしかできない療養上の世話を、丁寧に行っていきたい・心を込めて行いたいと思った (2)
- ・ 療養上の世話は看護師しかできないということに改めて気づき、患者さんの立場に立ったケアの提供ができるよう心掛けたいと感じた
- ・ 療養上の世話は看護師だけができるところを改めて考えることができたので、患者の訴えを聞き漏らさないようにしてケアをしたいと思った
- ・ 療養上の世話はNsにしかできないため、病院での生活、ベッド上で過ごすことなどでPtの苦痛を軽減できるようにしていきたいと改めて感じた
- ・ 看護師は唯一療養上の世話を行うことができるので、患者様の生活を支援できるように希望に添った看護を行っていきたいと思った
- ・ 患者さんの療養上の世話は看護師にしかできないという話を聞き、素晴らしい職業だと改めて感じた。同時に責任を感じたので、視野を広く持ち、日常生活行動一つ一つを整えることを意識したい
- ・ 看護師にしかできない「療養上の世話」という仕事に誇りを持ち一つ一つ丁寧に行っていきたい。またチームの一員として行動できるよう広い視野を持ちいろいろなことに気づける看護師でありたい
- ・ 看護師の行うことができる療養上の世話について、患者さんがその人らしく入院生活を送れたり、少しでも生活環境を整えられるように関わることで患者さんの安楽につながるのだと改めて学んだ。忙しい日々の中でもそのことを忘れずに関わっていきたい
- ・ 患者の立場に立って看護していこうと思った
- ・ 患者の立場になり、自分ならどうしてももらいたい・看護師として何ができるのか考える(2)
- ・ 患者の立場になって考えることの大切さを学んだ。患者の入院前の日常生活を大切にしたい
- ・ 大学の講義とほとんど同じだったが、ケアをする上で患者の立場から考えたい
- ・ 患者さんの立場になって考え気づくことができるよう行動することの重要性を改めて感じ、自分にとっての看護とは何か常に立ち返ってこれからも看護を実践していきたいと感じた
- ・ 今は目の前のことしか見えず余裕を持って考えられていないが、余裕のない中でも患者さんの立場になって、こうしたら不快感が取り除けるのかな？と考えながら接するようにしたい
- ・ 患者さんのための看護を行っていくという話に、改めて看護というものについて考えさせられた。患者さんの立場になって考えることを忘れてはいけないと思った
- ・ 病態や症状ばかりに目を向けるのではなく、患者さんが何を不快に思っているか、どんなことが不安にさせているかなど、患者さんの立場に立って考えられる人になりたいと思った
- ・ 先生の新人時代の患者さんを尊重した勇気ある行動に感動した。また入院して感じた体験について聞き、自分ももっと患者さんの立場に立って看護を提供できる看護師になりたいと思った
- ・ 本当の意味で患者・家族に寄り添えるよう努める

- ・ 忙しい中でも、患者さんの身になって、寄り添った看護を提供していきたくと思った
- ・ 患者の声に寄り添うことが大切だが、その本音を引き出す技術がこれから必要だと感じた
- ・ 患者さんに寄り添うことは、気持ちで寄り添うのではなく専門的な考えを持ってケアを行うということを初めて聞いて印象的だった
- ・ 医療の中心は患者・家族であることを再確認できた。情緒的に寄り添うことも大事だが、看護師として患者の事情、生活、病態など全ての知識が大事だということが分かった
- ・ 2年目で、業務をこなすことで精一杯の毎日。ナイチンゲールの看護観や看護倫理について改めて思い出すきっかけとなり初心に戻ることができた。看護師だからできることは何かを今一度考え、スタッフや患者とのコミュニケーションを大事に看護を提供していきたくと思う
- ・ 疼痛の緩和だけでなく、口渇や発汗など患者が求めていることを幅広く観察し、援助しようと思った。情緒で寄り添うのではなく、看護行為で寄り添おうと思った
- ・ 看護師は患者に一番近い存在であり、信頼関係を築けるよう日々動いていきたい
- ・ 看護師としてどう患者やスタッフと関わっていくのか、自分達の役割とは何なのか学ぶことができた
- ・ 治療面だけでなく、入院生活における不快や不安を取り除けるようにこれから患者さんと関わっていきたくと思った
- ・ ご自身が ICU で経験されたお話を聞いて、患者さんの苦痛を取り除くことができる看護をしていきたくと思った
- ・ 病気によって制限されている日常生活に対する苦痛を取り除けるよう、患者さんの苦痛因子について考えて支援していくことが看護の役割であると思った
- ・ 今までは心に寄り添う看護が大切であると思っていた。しかし寄り添う看護は身体的に不快を取り除き患者さんの生活も整えることだと学べた
- ・ 患者様目線で困り事に気づき早く対応する
- ・ 困ったときほど初心に戻る
- ・ 患者それぞれに合った看護ができるように努めたい
- ・ 患者さんを身近に見られるのは自分達なので、きちんと把握して対応できるようにしていきたい
- ・ 患者さんが感じている感情を理解し、適切な介入をできるようにしたい
- ・ 術後の観察は看護の視点でしか意識できていなかったと感じた。患者の思いを考えながら不快を取り除くことを意識して行動したい
- ・ 医療行為だけでなく、患者の思いに耳を傾け、気づけるように心がけようと思った
- ・ 専門的な処置ばかりに気を取られすぎず、自分だったらどうして欲しいかと考えながら看護していきたくと思った
- ・ 自分は何のために行っているのかを考えさせられた。自分が思う看護を大切に丁寧に行っていきたく
- ・ もっと思いやりを持って看護を行っていこうと思った
- ・ Pt の望んでいることを優先に考えられる Ns になる
- ・ 実体験を聞いて、患者の思っていることを理解し対応できるようにしたいと思った
- ・ 先生が経験されて思ったこと・感じたことを聞き、生理的ニーズを満たすこと、患者は何を望んでいるのか考えていこうと思った
- ・ 患者さんの最適な健康状態を目指し、患者さんが主体的となって生活を営めるよう支援・援助する
- ・ 患者様は不快やツラサがあると思って、処置もだがケアをきちんとしていこうと改めて思った
- ・ バイタルなどから異常を早期発見することも大切だが、目の前の患者さんが何を考えているのか、どうしてほしいのか、相手の立場に立って考えることも大切だと思った
- ・ 身だしなみや言葉遣いに気をつけていこうと思った
- ・ 看護実践を行う上で欠かせない身だしなみや言葉遣いは、信頼関係の構築に繋がるということを学んだ
- ・ 責任を持って仕事を行い、患者への信頼関係が築ける看護師として頑張っていこうと思った

- ・身だしなみは人が決めること、という考え方が自分にはなかったので、誰に会っても不快に感じさせないということを心掛けたいと思った
- ・働きだして改めてチーム医療の大切さを感じたので、小さいことでも報告しコミュニケーションを取っていききたい
- ・日常生活の援助の必要性が改めて分かった
- ・日常生活援助に力を入れていききたい
- ・日常生活をしっかりと整えられるように接することができるか振り返れた
- ・当たり前の日常を送れるように生活を見ていこうと思った
- ・患者さんの日常生活が普段と近いものになるようNsとして関わりたい
- ・患者さんをアセスメントすることも重要だが、それ以上に患者さんの清潔などの日常生活看護に目を向けることができる看護師になりたいと感じた
- ・業務的になっていることにモヤッと感じていたので、看護師は患者さんの生活を守ることが仕事と言われ、存在価値を感じた
- ・生活の援助者になれているか、患者さんの立場になって関わり方をもう一度考えたいと感じた
- ・症状やバイタルサインだけでなく、髪を整えるなど患者の身の周りまで気を配っていききたいと思った
- ・患者さんがどう思っているか考え、呼吸・循環・食・排泄・移動・睡眠・清潔・更衣など日常生活行動を援助していききたい
- ・患者さんの療養生活が苦痛にならないよう、日常生活で行う清潔ケアや食事など細かい配慮で実施していききたいと思う
- ・今後看護を行っていくときには、患者の思いを理解し、その思いに添った行動をとれるようにしていきたいと思った
- ・患者さんと関わるときに、身体的な痛みを取り除くだけでなく、精神的に苦しんでいることは何か考え支援できるようになりたいと思った
- ・患者さんにとっての最良を考えて療養支援を行うことができたらと思っていたが、働いていると忘れかけることが多いと気づかされた。再度基本を意識し患者さんに何ができるか考えて働きたい
- ・1年経過し、日々の業務の中で看護の基本を忘れがちであったように思う。実践と患者の思いがかけ離れることがないよう、治療の目的を維持しつつ患者の生活を守る看護を大切にしたい
- ・患者の生活背景も含めて看護しなければいけないと思った。ただの業務になっていると感じる時もあるため、患者の状況からNsにどうしてほしいと思うか考え、寄り添った看護を心掛けたい
- ・看護師が行おうと思っていることと、患者が求めていることは違うのだなと思った。自分が患者側になって、何を一番求めているかを考え、看護をしていきたい
- ・患者さん一人ひとりに合った看護、寄り添った看護ができるようになりたいと思った。また、頼りにされるような看護師になれるようにしたいと思った
- ・看護師はできることがたくさんあることに気づけた。そして責任が大きいことも改めて感じた。Nsとして他人の異常に気づくことも大切だが、その方の生活にもっと目を向けてケア・キユアを行っていききたい
- ・新しく覚えることが多く、術後の状態の観察でいっぱいになってしまっていたが、患者の最適な健康状態を目指すことが大切と分かり、頑張ってもっと気を配ろうと思った
- ・疾患による症状の出現によって身体的にも精神的にも辛い思いをしている患者様に一番近くで支援できるのは看護師なのではないかと感じるため、患者様の気持ちや訴えを傾聴し、必要としている看護を実施していききたいと改めて思った
- ・看護師にしかできないことを再度考え、チーム医療で生かせる看護をしていききたいと思った
- ・チーム医療の大切さ。同じ思いを持っている集団が集まらないと良い看護に繋がらないと思った
- ・患者さんをできる限り優先して、いろいろな人と情報を共有しようと思った
- ・患者の情緒面だけでなく、看護技術面でも寄り添っていききたい

3. 今、悩んでいることは何ですか？ また、今回の研修で何かヒントになることがありましたか。

- ・ 特になし・悩みはない(9)
- ・ 患者への関わり方を見直したい
- ・ 疲れが溜まりやすく、取れにくい
- ・ 夜勤の開始
- ・ 壁にぶつかった時の踏ん張り方が学べた
- ・ 患者・家族との関わり方
- ・ 人間関係
- ・ 看護技術をもっと多く身につけたいが、なかなか機会がない
- ・ 患者さんの家族がどのような情報を求めているか、自分の返答に納得していただいているのか
- ・ 多重課題にうまく対応できず、タイムスケジュールが立てられないことが多い。また、困ったことがあっても周りが忙しくしていると声を上げることができずその場で立ち止まってしまう
- ・ スタッフ、患者さんの表情がマスクで隠れてしまい、十分なコミュニケーションがとれない
- ・ 先輩の教えて下さることが1人1人違う、マニュアル通りでない⇒考え方の違いで差異が生じる
- ・ 自分より看護師経験は豊富だが自分の方が病棟経験が長い場合に、やり方やルールをいろいろ聞かれることがあるが、どのように伝えたら失礼なく伝わるのか
- ・ 効率的かつ丁寧に看護や業務を行っていくにはどうしたらいいか、毎日反省や振り返りをしている
- ・ やりたいケアをする時間がない⇒何か一つでもいいから目標をもって1日を過ごそうと思った
- ・ 理想とする看護と現実とのギャップに悩むことはあるが、今回の研修で大変多くのことを学んだ。今後に活かしていきたい
- ・ 前向きになるためのヒントが得られた
- ・ 人間関係改善についてのヒントがあったように思う
- ・ 品格を身に付けていきたい。普段の生活から気をつけていく
- ・ 何のために病態・治療を学ぶのか、大切なことがクリアになった
- ・ 1人1人としっかり関わっていききたいが、看護師も足りず、なかなか1人の患者さんとの時間がとれることが少ない。それでも、自分の精一杯の看護で向き合っていきたいと思った
- ・ 思い込みで動いてしまうところがあるので、アンコンシャス・バイアスの内容がとても心に響いた
- ・ 初心を振り返るきっかけになった。現在悩んでいることは、まだまだ知識や技術が足りず自信を持って看護が提供できないこと、スタッフとコミュニケーションをとり協力し合う関係が構築できていないこと（相談しにくい先輩がいること）
- ・ 看護とは何をすればよいのか悩むことがあったが「命を守り、生活を支える」ということだと教わり、なるほどと思った
- ・ 寝たきりの患者さんが入院している病棟で働いており、言語コミュニケーションを取れる患者さんがほとんどいないため、表情や状態を見て看護を行っている。今、患者さんが求めていることはこんなことなんだろうと考えているが、本当に理解できているかなとも思う。しかし講演を通して、少しは理解できたのではないかと思う
- ・ いろいろな人と関わることができる看護師という職業にもっと誇りを持ち、一生懸命周りの人や自分のために取り組んでいこうと再確認することができた
- ・ 看護師になることを目標に今まで頑張ってきた。目標を叶えた今、どうしていけばよいのだろうかと考えていたが、まだ何でもやれるということを改めて感じ、いろいろなことに挑戦していきたいと感じた
- ・ 点滴や手術の準備など業務的な関わりが大きいことが悩み。患者さんの生活を守るという言葉が軸を考えていきたいと思う
- ・ 4月の異動で医療的な処置が増え、何もできないことに悩みがあったが、実際に患者さんがして欲しいと思っていることは、身の回りのことなど日常生活に関することなのだった

- ・ 分からないことや経験不足なところを日々勉強し分かるようにしていく
- ・ 今までではできないことばかりに目を向けてきたが、自分には何ができるかとポジティブな考え方をすることが大切であると学べた
- ・ 何か月、何年後かにちゃんと先輩のような看護師になれているか不安。自分の弱みを強みとして受け取り伸ばしていく、人と比べるのではなく自分の目標に近づいていくことが大切ということ学んだ
- ・ 看護の楽しさを感じることなく、一日の業務を終わらせることが目標になっていたと感じた。楽しみながら働けることが患者さんにいい影響を与えられるという意識をもって働きたい
- ・ 仕事に自信がなく落ち込んでいたが、前向きになれた
- ・ 仕事に対してあまり楽しいと思えない。看護師は法律のもとで仕事をしているという言葉に少し勇気もらった
- ・ 自分の考え次第で、仕事が楽しいと思えたりやりがいがあると思えるということが分かった
- ・ 忙しさや慣れないことで仕事が楽しいと思えない時があった。でも、患者さん・周囲のサポートしてくれる方々に感謝して頑張る気持ちが大切だと感じた
- ・ 患者さんのために、自分も楽しく働きたいと思った
- ・ 仕事が楽しいかつまらないかは自分の気持ち次第ということが分かった
- ・ 仕事に対するモチベーションが上がらない。それを仕事内容のせいにしていたが、まずは自分の考え方を大事とすることが大切ということ学んだ
- ・ 行動する前にいろいろ考え過ぎてしまいすぐには行動できない・積極的に動けない。「何か行うときスイッチを押すのは自分しかない」と言われたので、何事も自分から始めていかなければ何も始まらないということ改めて学んだ
- ・ 部署異動が9月頃あると言われており、仮に希望する部署に行けなかったとしてもポジティブに頑張ろうと思った
- ・ 仕事を続けていけるか不安になっているが、自分の思いを今は尊重して乗り越えたいと考えた
- ・ 自己肯定感が低いと言われるため、モチベーションのため目標を決めるきっかけになった
- ・ 看護観・考え方の違いで悩んでいた。その人その人の立場で考え、違う意見を受け入れる
- ・ できないことやうまくいかないことばかり気にしてしまっていたが、自分の強みを理解し大切にしていくことも重要だと教えていただき、心が軽くなった
- ・ チーム医療のインタープロフェッショナルワークのルールはとても大切にしたいと思った
- ・ まだ新人で何もできず、先輩に迷惑をたくさんかけてしまっていると感じて落ち込んでいた。自分の強み・私らしさとは何かを考えるきっかけになり頑張ろうと思うことができた
- ・ 報・連・相とよく言われるが難しい。自分が、周りが問題に蓋をするのではなく、どのようにしていくとよいか広い視野で考えながら行動したい
- ・ できることが1つ増えたと思うと、できないことがそれ以上に見つかり自己肯定感が下がること⇒受け止め方で変わってくる
- ・ コロナ禍でマスクが当たり前になり、“態度・表情も言葉”と話されていたので、マスクの中でも笑顔を忘れず働きたいと感じた
- ・ 笑顔を大切に、自分からいろいろなことにチャレンジしていきたいと思った
- ・ 新人も4月から入ってきて業務が辛く、笑顔でいることが少なかった。患者さんに元気を与えるためにも自らポジティブな考えをもち、笑顔で頑張りたいと思った
- ・ マスクで相手に表情が分かりにくい時代だが、話し方や目で相手に好印象を持ってもらえるように関わりたい
- ・ 知識・技術・態度が成長できていないこと。まずは自己を肯定したり、考え続けることが大切だと学んだ。一日一日を大事にして日々成長できるよう努力したい
- ・ 仕事に対してやりがいに思ったことは少ないが、気持ちや考え方で人生が変わることに気づけた

- ・ チーム内で自分の発言をすることが難しい。他者とのコミュニケーションは患者さんにとって必要であることが改めて分かったのでしっかり発言していきたい
- ・ 今悩んでいることでも、ポジティブ、モチベーションを上げることで見え方が変わってくるのが分かった
- ・ 少し落ち込むことがあったが、いつまでも気にせずポジティブに切り替えていこうと思い、少し楽になった
- ・ 自分の看護に自信が持てず、すぐマイナス方向に考えてしまう癖があるため、自分の強みを見つけ出し長所を探すきっかけができた
- ・ 自分と合わないなと思うと話せなくなったりすることがあったが、違いを受け入れることができるようになりたいと思う
- ・ 日々患者さんへの対応に悩むことはある。研修を通しての気づきや学びを活かしていきたい
- ・ 患者さんとのコミュニケーションを上手く取ることができず悩むことがある。しっかりコミュニケーションをとって関わることで、苦痛を取り除くよう支援できたり寄り添っていけると学んだ
- ・ 看護技術が上手くできない。Drに「最初から上手くできる人はいない」と言われたというエピソードがヒントになった
- ・ 看護師に向いているのか、何のために働いているのか分からないことがあったが、振り返ってみようと思う
- ・ 人が少なく毎日の業務に追われて生き生きと仕事をするのができていなかったが、考えを変えることも必要なのだと気づかされた
- ・ 仕事が忙しいばかりで、患者に寄り添えている実感も少なくやりがいを感じる事があまりない⇒マイナスな方向で考えず、プラスな考え方でやっていく
- ・ 2年目になり、まだまだ勉強不足なところも多いので落ち込むが、学んだこと、指導されたことを次に生かせるようにしていきたいと思う
- ・ この先自分でも看護師を続けていけるのか不安だが、看護観を思い出していこうと思う
- ・ 看護師に向いているか、自分になりたかった看護像に近づいているか、いろいろ沢山悩む時期もあったが、初心の気持ちを改めて思い出し頑張っていこうとポジティブな気持ちになった
- ・ 忙しい時や切羽詰まった時に、ミスを起こしそうになったり情報伝達が上手く行えないこと。思い込みや、1人1人の考え方が異なるため受止め方の違いでも情報が上手く伝わらなかったらミスに繋がると思った。疑問に思ったことは抱え込まず、周りに相談して解決していきたいと思った
- ・ 仕事を楽しくしていくにはどうしていけばよいか、看護師とは何をすべきか、いろいろなヒントをいただけて有意義な時間になった

4-①. 今回の Web 開催はいかがでしたか？ 参加された感想やご意見を、ぜひお聞かせ下さい。

- ・ よかった・とても良かった(2)
- ・ Zoom が初めてだったため新鮮であった
- ・ 集中して話が聞けた
- ・ 音声も途切れることなく聞きやすかった
- ・ 通信状況も良く、問題なかったように思う
- ・ 時間的ロスもなく、とても快適に受講できた
- ・ どんな病院が参加しているのか知れて良かった
- ・ Web でも相手の表情・講師の方の顔が見えたので良かった・聞きやすかった(3)
- ・ 講師の表情が見えて良かった。スライドも見えやすく、視覚的にも情報が入りやすかった
- ・ 対面と変わらない様子だったので、今後も Web 開催でもよいのではと感じた
- ・ とてもスムーズだったと思う
- ・ 新鮮で面白かった
- ・ リラックスして視聴することができた
- ・ 見やすく、聞きやすくてとても良かった
- ・ コロナ禍なので Web 開催で良かったと思う
- ・ Web 研修で、参加できる人も増えたと思う

- ・ パワーポイントも見やすく、講師の方の顔を見ながらだったので対面の時のようだった。貴重なお話を聞くことができ良かった。ありがとうございました
- ・ 画面共有や資料配布など、事前準備があったことでとてもわかりやすかった
- ・ 資料が手元にあったのでわかりやすかった。不便さは感じなかった
- ・ 移動時間がかからないため、よかった・参加しやすかった・研修に集中できた(4)
- ・ 様々な場所から受講できるため、とてもいい機会になった。ありがとうございました
- ・ Web 上であっても研修を受けられることはありがたかった
- ・ コロナ禍でなかなか外に出られないので、院内で講義を受けることができ勉強になった
- ・ コロナで研修に行けない中、Web で開催してくださったので、オンラインで多くのことを学ぶことができ、本当に嬉しかった。またいろいろな研修を開催して欲しい
- ・ 自宅からでも研修を受けることができとても勉強になった。今回の学びをこれからの看護に活かしていきたいと思う
- ・ コロナ禍のため、安全・安心して講義を受けることができた。皆で集まることも良いが、久々に同期のみで会えて良かった
- ・ Web での講演会は、大勢の人と接触しないので感染面で安心して受けることができた
- ・ Web 開催は先生の顔は見えていないが丁寧な口調、わかりやすい声のトーンで講演と同じような雰囲気聞くことができよかったと感じた
- ・ 講師の方の表情やジェスチャーなどが分からないのは残念だったが、音声や映像ははっきりと聞こえたので、実際に会場で聞いているのと同じ感覚だった
- ・ 初めて Zoom で参加して iPhone を使用したが、最後の方で機器が高熱で画面が中断してしまったことがあった。すぐに回復したが、機械トラブルが起こったときに講義が聞けなくなるのが困った(☹️)。コロナ禍のため Web で講義を受けることができたのは大変ありがたかった！
- ・ はじめて Web 研修を行ってみて他病院のスタッフの方の考え方などが聞けて良かった
- ・ 実際の会場で聞くことができなかつたのが残念だったが、事例などを用いて丁寧に説明してくださり分かりやすかった
- ・ 画面を通してでも話も聞きやすく質疑応答も行えていたので良かったと思う
- ・ Web でも質疑応答の時間があり、一方的な発信でなく良かった
- ・ 良かった。一方的な講義でなく、コミュニケーションを図りながらできたところが良かった。内容も良かった
- ・ 他の病院の人とも関わり、意見がもらえて良かった
- ・ オンラインでも、違う病院の意見や考えを共有できる時間があってよかった
- ・ 初めて Web での講演を聞いたが、質問や感想を聞くことができたので良かったと思う
- ・ 他病院の方の意見や姿を見られて、仲間がいるという感じがあって良かった
- ・ 直接講義を聞けなかつたのは残念だったが、リモートで複数の会場をつないだことで質問や感想など自分になかつた意見を聞くことができたのはよかった
- ・ 実際に会場に行くことはできなかつたが、それぞれの場所からリアルタイムで意見交換ができ学びが深まった
- ・ 実際に対面でお話を聴くことはできなかつたが、質問することができたり、先生も質問を投げかけてくださり、Web 開催の中でもたくさん勉強になったので参加できて良かった
- ・ Web だと最小限の人数で密にならず、スクリーンも見えるため良かった
- ・ 各病院から少人数での参加で、三密を避けながらできたので良かった
- ・ Zoom が途切れることなくスムーズに講演が進んだので良かった
- ・ Web なので臨場感がなくて眠くなる。でも県外の先生方のお話が聞けて良かった
- ・ もたつくところもあったように感じるが、手軽に参加できたのでとても良かった

- Web では声が聞き取りにくかったりするのではないかと思ったが、声の大きさもスピードも良く聞き取りやすかった
- 最初は Web 開催がどんなものか想像できず不安だったが、思ったよりも臨場感があり適度な緊張感を持って参加することができた。貴重なお話をありがとうございました
- 講演の途中で、ネットワーク環境が悪いせいか一旦中断されてしまい、再開できたときには話が進んでいたため、すべてを聞くのは難しいのかなと思った
- 接続状態が悪く、言葉が途切れ聞き取りづらいことがあった
- 講師の声はよく聞こえたが、他会場の方が発表している時の声が聞こえにくかった
- リラックスして受けられた。質問者の音が小さかったりすると聞こえなかった
- 過度な緊張なく、受講することができた。また講義も聴きやすかった
- Web だと会場に行かなくてもいい分、気軽に受けることができ、集中できるのでよかった
- どこでも参加しやすくて良いが、音質や質問しにくい環境であると感じた
- Zoom は授業よりも聞く気が起こらないかと思ったが、通常の授業のように聞けて意外によかった
- 初めての Web 研修だったが、しっかり学習できて良かった
- Web でも話を聞かせていただけて良かった(2)
- 遠くの方におられる先生の話も聞いたのが良かった
- 離れた場所から貴重な話を聞いたのは良かった。音が少し聞こえにくかった
- 会場に足を運んで講演を聞いたかった
- やはり対面で表情が見えた方が良いと感じた
- 機会があれば対面で受けたいと思った
- 話を聞いたりするのは直接の方がいいと思った
- 直接講義を受けたかった。仕事していたら忘れていたことに気づけて良かった
- どちらの講演も心に響く内容だった。コロナ禍の中でも、こういった形で講演を聞くことができ有意義な時間となった
- コロナ禍で研修に参加できなかったが、オンラインで講演を聞いたことで初心に戻って考えることや、働く中で薄れかけていたことを思い返すことができ明日からまた頑張れると思うことができた。個々の会場で受けることで感染症の心配が減り良かったと思う。ありがとうございました
- 音量に差があり聞き取りづらいこともあったが、コロナ禍でこのように開催してくださりありがとうございました
- 音声時々割れていて聞き取りにくいことがあった(2)
- コロナの中、研究会を行っていただきありがとうございました
- コロナ禍の中、研修に参加できたのでよかった(2)
- Web のためスムーズにやり取りすることが難しかったのではないかなと感じた
- Web で慣れていない者同士の質疑応答は、ハプニングただただで眠たくなってしまった
- Web 研修で 5000 円という参加費用は高額であると感じた
- 分かりやすい講義だった
- 説明が分かりやすく、とても勉強になった
- 資料があって良かった
- 貴重なお話をお聞かせいただき勉強になった
- レジュメなどあって分かりやすかった
- 最後の短い映像に感動した。感銘を受けた
- 有意義な時間になった。前向きになれた
- 考え方や捉え方が新しく参考になった
- いろいろな話が聞けてすごく勉強になって良かった
- 今の自分の悩みにぴったりの研修内容で良かった
- 看護という仕事について深く考えるきっかけとなった
- 看護師としてこれからどうあるべきか考えさせられ、非常に満足した
- いつか看護師という仕事の魅力に気づけるようになりたいと思った
- 社会人としての基本的なことが分かって良かった

- ・ 今までの自分の行動や気持ちを考え直すことができ、とても良い機会になった
- ・ 自分の今までの行動や接し方がどうだったか振り返るきっかけになった。コロナ禍の中で、勉強できるいい機会だったと思う
- ・ Web研修に参加したことで、患者さんに対する看護についてや、自分自身のあり方や働き方について考えることができた
- ・ 様々なことを改めて見直すきっかけになったので、よい研修だった
- ・ どちらの講演も看護師として働く上で為になる内容で、今の自分の仕事のやり方、仕事に対する思いを考え直されるものだった
- ・ 学んだことを明日からの看護に活かしていきたい
- ・ 自分の看護観について再度検討する良いきっかけになった。今後の看護に活かしていきたい
- ・ たくさんの経験を重ねてこられた先生方の話を聞くことができ、大切にしたい看護を考えたり、モチベーションが上がったりするととてもいい機会になった。ありがとうございました
- ・ どちらの講演もマナー（身だしなみ、言葉遣いなど）の必要性をあげていたので、改めて自分のマナー力について振り返りたいと思う
- ・ 看護におけるアイデンティティを考えたことがなく、今日をきっかけに、頭に置きながら仕事しようと思った
- ・ 患者と関わる際には、明るい表情・声で関わるのが大切だと分かった。Zoomでもとても分かりやすかった
- ・ 患者さんの立場に立って考え、よりよい療養生活を送っていただけるように関わってきたいと思った

4-②. Web開催はどこで参加されましたか。

- | | |
|------------------|---------|
| a. 受講会場（岡山県医師会館） | （ 0名） |
| b. 病院（勤務先） | （ 115名） |
| c. 自宅 | （ 13名） |
| d. その他 | （ 0名） |

◆ 参加者の状況

【年 齢】

- | | |
|-------|--------|
| 20歳未満 | （ 0） |
| 20歳代 | （ 117） |
| 30歳代 | （ 8） |
| 40歳代 | （ 3） |

【経験年数】

- | | |
|----------|-------|
| 6か月未満 | （ 46） |
| 6か月～1年未満 | （ 2） |
| 1年～2年未満 | （ 66） |
| 2年～5年未満 | （ 14） |

【職 種】

- | | |
|------|--------|
| 看護師 | （ 126） |
| 准看護師 | （ 2） |

